

第 98 回日本学生氷上競技選手権大会
アイスホッケー部門競技要項（セカンドディビジョン）

1. 参加資格

日本学生氷上競技連盟加盟校のうち、各地区の最終予選においてファーストディビジョンの出場権を得ることのできなかったチームの中で、予選会において最も上位の成績を収めたチーム 8 校（北海道 1、東北 1、北信越 1、関東 1、中部 1、関西 1、中四国 1、九州 1）

2. 出場制限

- (1) ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小 1 名、最大 2 名。プレイヤー最小 5 名、最大 20 名とする。試合開始の整列時にゴールキーパー 1 名スケーター 5 名に満たないチームは、没収試合とする。この際、不戦敗（スコアは 0-15）として扱う。
- (2) 試合に際して、登録された責任者（チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等）が不在のチームは、没収試合とする。この際、不戦敗（スコアは 0-15）として扱う。
ベンチ入りスタッフは最小 1 名、最大 6 名とする。スタッフとは監督・コーチ・トレーナーあるいは部長・副部長等とし（公財）日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。ただし、学生スタッフ（ドアマン・マネージャー・トレーナー等）は除く。
ベンチ入りする学生スタッフは、フルフェイスマスクの付いたヘルメットを着用すること。
- (3) 外国籍学生の試合出場は、1 校につき 3 名以内とする。なお、休学中の者、交換留学によって、一時的に日本に滞在している外国の大学の学生は、出場資格を持たない。

3. 競技方法

- (1) セカンドディビジョンは、8 校によるトーナメント戦により 1 位～8 位を決定する。
2 日目に順位決定予備戦を行い、最終日に順位決定戦を行う。（参加校は、全て 3 試合実施する）
- (2) 対戦表の左側を仮ホームとし、本部席から向かって左側のベンチに入る。
- (3) 仮ホームチームがユニフォームの色を選択できる。監督会議では 1 回戦のユニフォーム確認を行うが、順位決定予備戦及び決勝戦、3 位決定戦はチーム間で協議すること。チーム間の協議が整わない場合には、速やかに大会事務局に相談し、大会を運営する連盟の指示に従うこと。
- (4) 試合でのホームとビジターは、パックスにて決定する。その際、仮ホームチームが裏表を選択できる。

4. 試合時間と練習時間

正味 20 分×3 ピリオドで行なう。各ピリオド間のインターバルは、12 分とする。

練習時間は、10分間（1回戦は7分）とする。（練習終了後に製氷なし）

下位順位戦（5位～8位決定戦）は正味15分×3ピリオドで行なう。

各ピリオド間のインターバルは、5分とする。（ピリオド間に製氷は行わない）

練習時間は、5分間とする。（練習終了後に製氷なし）

5. 競技規則

（公財）日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び本大会事務局の定めるローカルルール以外は、原則として、国際アイスホッケー連盟の定める公式国際競技規則に準ずる。

タイムアウトは、全試合、各チーム1回（30秒）使用できるものとする。

6. 同点の場合（下位順位戦は同点の場合はすぐにPSSに移行）

第3ピリオド終了時点において同点の場合、下記の方法で勝敗を決定する。

3分間のインターバル後、サイドチェンジは行わず、正味5分間のスケーター3対3によるサドンデス方式の延長戦により勝敗を決定する。延長戦でも決しない場合は、下記による「ペナルティー・ショット・シュートアウト」（PSS）にて勝敗を決定する。

PSSは、両チーム5名の方式で行うが、ローカルルールとして、製氷は行なわず、両サイドを使用し、各チームのゴールキーパーは第3ピリオドと同じサイドを利用する。ただし、レフェリーが氷面を確認し、両サイドを利用することがどちらかのチームに不利になると判断した場合には、レフェリーが使用するサイドを決定する。なお、5名で決着がつかない場合にはタイ・ブレイク方式(サドンデス)で行い、タイ・ブレイクは、同じ選手が何回でも続けてショットを行っても良い。

7. 注意事項

(1) タイダウンストラップの着用義務がある。（ユニフォームとパンツは、ストラップで密着させなければならない）

(2) 全選手は、フルフェイスマスク、ネックガード・イヤーガードを着用しなければならないマウスガードはすべての選手が強制される。

※白、透明は不可。ただし30%の着色があれば認める

(3) ユニフォームの名前表記は、一切規制しない。ただし、テープで名前を隠すことは認めない。名前を隠す場合には、同系色の布を縫い付けること。

(4) 5人対5人のプレー中、同時にペナルティが発生した場合、キャンセルアウトにより、ペナルティベンチに選手をおかななければならないが、氷上に必要な人数(スケーター5名)を出せない場合には、その場で試合は没収(スコアは0-15)となる。

(5) 今大会においては、コーチチャレンジ方式は導入しないものとする。

(6) 試合中、ベンチ内での写真・動画撮影は禁止する。

(7) コーチングの目的にのみ、電子機器の使用を認める。

8. その他

- (1) 主催者及び主管団体は、競技中における怪我について、一切の責任を負わない。
- (2) 大会参加チームは傷害保険に加入すること。
- (3) 優勝したチームの所属する地区には、次年度ファーストディビジョンの1枠を増加する。
- (4) 秋季代表者会議(社員総会)において各地区のトーナメントの位置を抽選で決定する。